

大学地域連携課題解決支援 2014 報告書

A. 地域課題対応型

1. 人口流出を防ぐための定住施策
長浜市×滋賀文教短期大学……………1
2. 甲賀市の地域資源を活かしたまちづくり(水口～土山の文化遺産を活かす事業化)
甲賀市×立命館大学……………3
3. 彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画推進について
彦根市×聖泉大学……………5
4. 理想の天津つくろう～大学生が考える未来の天津～
大津市×龍谷大学……………7
5. (農産加工品等)地域資源掘り起しと活用(H25 年度の実践の継続)
東近江市×滋賀県立大学……………9
6. 玉川っ子検定 ～わがまち玉川の魅力発見～
草津市×立命館大学……………11
7. 歴史まちづくり法に基づく草津市のまちづくり
草津市×立命館大学……………13
8. 環境推進員(エコリーダー)への参加
彦根市×滋賀県立大学……………15

B. 自主活動型

9. 学校と地域社会が協働した児童虐待対策ネットワーク構築に向けて
滋賀大学……………17
10. 滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発
滋賀大学……………19
11. 堅田歴史、観光 ウォーキングマップの作成
成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学……………21
12. 米原市伊吹地域を中心とした、若者によるまちおこし事業の調査検証と記録
米原市×滋賀県立大学……………23
13. 龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト
話し合いがまちを変える！守山市市民参加と協働による骨太の 地域づくり参画プログラム
龍谷大学……………25
14. 科学(Science)を通じた地域交流
長浜バイオ大学……………27
15. 身近な科学のおもしろさを体験させる
長浜バイオ大学……………29

No. 1

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名 (活動テーマ)	: 人口流出を防ぐための定住施策
提案者	: 滋賀文教短期大学 国文学科 戸塚ゼミ
自治体担当者	: 長浜市企画政策課 主査 福島真奈美
大学担当者	: 滋賀文教短期大学 国文学科 准教授 戸塚麻子

1. 取組み体制: 本ゼミ生は、長浜市内の店舗等への取材を行い、冊子『ねこまち—長浜をもっと好きになる』を年1回発行する。また、並行して「長浜かるた」等の制作を行う。その他、その様子を本学公式ブログやfacebook、ツイッター（H27年前期に開設予定）を通して随時外部に発信すると同時に、地域との交流の一助とする。

こうした活動は、本学の他の組織、入試広報課、キャリアデザインセンター、ブログサークル等と連携しつつ、全学的な活動として取り組んでいる。また、長浜市との連携もより強化し、地域の声を聞きながら活動内容に取り入れて行きたいと考えている。

2. 背景・目的: 本学は長浜市の東北部に位置し、多くの学生が長浜市を中心とする滋賀県への就職を希望している。一方、高等学校を卒業してわずか2年後には社会に出ることを要請されるという状況にありながら、働く大人と接触する機会が非常に少なく、仕事に対するイメージを抱きにくいという現状があった。こうした実情を踏まえ、本ゼミにおいては、「地域で働くこと」をテーマに、長浜市内で働く人々に取材を行い、交流することを通して、学生たちが仕事への意識を高め、地域での「生きる力」を身につけることを目指す。地域の店舗や企業等の協力を得ながら、学生を地域活性化に役立つ人材として養成し、卒業後は地域へと還元することを目的としている。

【第一目標】 フィールドワークや成果物の作成を通して、学生がより「地域で働くこと」への意識を深め、地域での「生きる力」を養成する。

【第二目標】 学生（若者）目線による冊子等の作成及び発行、またはインターネットを通じてのPR活動によって、長浜市の魅力を外部に発信し、観光客の誘致に努める。

3. 活動内容・成果:

4月11日（金） デコレーションオルゴール体験教室取材

* 『ぼてじゃこ倶楽部』から取材を受ける。『ぼてじゃこ倶楽部』6月号の巻頭特集に「滋賀文教短期大学 戸塚ゼミ」が取り上げられる。

5月16日（金） 吹きガラス体験教室取材

6月6日（金） バーナーワーク体験教室取材

7月5日（土） 株式会社黒壁ガラス事業部部長田中氏インタビュー

* 冊子の巻頭インタビューのための取材

10月11日(土) 黒壁スクエアフィールドワーク、長浜かるた取材開始。

*「長浜浪漫パスポート」の対象となる施設、安藤家、鉄道スクエア、慶雲館を取材し、本学公式ブログ上で公開。同時にFacebookを用いて宣伝を行う。

10月24日(金) 冊子版下完成、2日後入稿

11月8日(土) 冊子『ねこまち—長浜をもっと好きになる』創刊号(黒壁ガラス特集号)、発行

11月16日(日) 高月〜木之本フィールドワーク

*高月よりレンタルサイクルにて取材。渡岸寺観音堂、高月観音の里歴史民俗資料館、雨森芳洲庵、木之本宿等。取材内容はブログとfacebookで公開。

11月29日(日) 長浜駅周辺フィールドワーク。

*長浜城、ヤンマーミュージアム、大通寺、長浜八幡宮、豊公園等。ブログとfacebookにて公開。

12月13日(土) BBC「談論Who発!」にてゼミの活動が紹介される。

1月9日(金) 長浜かるた、読み札完成。

1月21日(水) 『毎日新聞』25面(滋賀版)に本活動が紹介される。

(「地元の魅力かるたに—滋賀文教短大 学生の視点生かし」)

4. 今後の取り組み

平成27年度

●冊子制作

4〜10月 長浜市内の和菓子店を数店舗取材し、冊子作成

11月 『ねこまち—長浜をもっと好きになる』第2号、和菓子特集号、発行

●長浜かるた制作

4月〜12月 長浜かるた取材、版下作成

5月 ツイッター配信開始(完成したものから随時)

12月 「長浜かるた」(第一版)印刷・発行



H26. 4. 11 ガラス体験教室取材



H26. 7. 5 株式会社黒壁ガラス事業部

(ぼてじゃこ倶楽部企画編集室撮影) 部長田中氏インタビュー



『ねこまち—長浜をもっと好きになる』

創刊号

【長浜かるた(部分)】

㊦ 海洋堂:海洋堂古き懐かしフィギュアたち ㊧ 小堀遠州:きれいさび 調和をもたらす 茶のそうしょう ㊨ のっぺいうどん:具だくさん 中でもしいたけめちゃでかい ㊩ 長浜駅前の石像:家来とす 三成と出会った秀吉公 ㊪ 渡岸寺観音堂:国宝の謎の多き観音様

No. 2

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名 (活動テーマ)	: 甲賀市の地域資源を活かしたまちづくり (水口～土山の文化資源を活かす事業化)
提案者	: 立命館大学金井ゼミ (国内調査実習・調査班)
自治体担当者	: 甲賀市教育委員会歴史文化財課 課長補佐 長峰透 甲賀市観光協会 事務局長 横川正巳
大学担当者	: 立命館大学 経済学部 客員教授 金井萬造

1. 取組み体制

立命館大学金井ゼミを中心に、甲賀市担当部局の助言・指導を受けて、甲賀市の水口～土山地域及び関連の甲賀市地域を対象にして検討した。

平成25年度の検討成果を受けて、地域の具体的な資源・人材資源・文化遺産に着目して地域活性化をめざしたまちづくり・人材育成の場づくりに取り組みました。

検討にあたっては、水口では、水口まつりと水口ばやしと地域住民の集い、人材の意見交換に場としての「甲賀塾」の活動を通しての地域課題の抽出・検討、技術面の水口細工の復興の取組みに着目して関係者との連携のあり方を検討した。水口地域の宿場町の遺産を活かした観光案内の基本ルートについての観光案内を行った。

土山では観光等の来訪者のもてなしとしての地域の食文化起こしと食事・土産品づくりに地元の「おむすびの会」との連携に取組み、試作品を作って、試食に供した。更に、地域環境と文化的景観の地域特性を活かした体験・学習の場と交流による活性化として「いきものみつけファーム滋賀」組織と連携して、フォーラムを開催し、交流・体験人口の増加と地域資源の活用を取組みを行った。

関連する連携事業として忍者と薬、信楽焼とMIHOミュージアムを連携した観光ルート開発についての検討、お茶の6次産業化について検討した。

2. 背景・目的

平成25年度の個別的对象の検討から水口～土山地域の活性化・まちづくりの具体的展開を図る視点から、地域活性化の4要素を全国の成功事例の分析から抽出した。

「地域活性化の取組み＝地域に対する情熱×地域資源発掘×人材活用×市場対応」

と設定し、調査班ごとに目標を明確にして、地域調査活動を開始した。

地域の活性化に向けては地域の情熱を持った核づくりが先ず必要で、地域資源としての生活文化・文化遺産の地域ストックに着目した体験・学習・交流を通じた実践していく場づくりに取り組む。そして、地域資源に付加価値を付け展開していける人材づくりを進めた。地域の経済的活性化に繋げていくための市場対応・流通対応の促進の取組みを進めた。

3. 活動内容

水口地域

1－1 水口ばやし

水口神社の行事にあわせて曳山のある地区の公民館に地域の関係者の集まりを活かす。

1－2 水口細工の復興対応

江戸時代に盛んであった水口細工を復興の取組みが十数年前から取り組まれている。

1－3 観光基本コース設定・実践

数多くの地域観光素材から重要な観光要素を連携した基本観光ルートを設定し促進する。

土山地域

2－1 土山の食文化

「おむすびの会」・「滋賀県立大学班」に干瓢を活したラスクを試作、販売の実践を行った。

2－2 地域環境を活かした取組み

地域の自然・環境を活かした体験学習のみと全国フォーラムを実践し、情報交流した。

2－3 土山茶・朝宮茶の6次産業化

お茶の活用と付加価値化としての商品化についての全国の取組みから検討した。

地域人材育成

3－1 観光案内ボランティアのスキルアップセミナー

70名の観光ガイドのボランティアの方を対象にしたスキルアップセミナーを開催した。

3－2 甲賀塾

地域の人材の集まる場づくりと意見交換・学習・経験交流を企画し、開催した。

関連の連携事業

4－1 忍者と甲賀の薬

忍者の歴史は古く、現在・未来の知恵の創造につながる。甲賀の薬との関連を検討した。

4－2 農の6次産業化

農業の6次産業化についての情報収集を行い、6次産業化のあり方を検討した。

4. 今後の取組み

今後の課題として4点についての検討が抽出された。今後引き継いで検討していく。

- (1) 観光ルートづくり
- (2) 6次産業化による地域活性化
- (3) 地域産業人材資源遺産の開発
- (4) 忍者ブランドづくり

No. 3

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（活動テーマ）	: 彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画推進について
提案者	: 聖泉大学地域連携交流センター長、人間学部准教授 富川拓
自治体担当者	: 彦根市教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐 植田勝彦
大学担当者	: 聖泉大学地域連携交流センター事務局 係長 徳田裕美

1. 取組み体制：

(1) 聖泉大学

学生、教職員が推進委員会の中心メンバーとなり、啓発事業を実施

(2) 彦根ユネスコ協会

推進委員会への参加、協力。推進委員会と連携し啓発事業を実施

(3) 彦根市

本取組の事務局を担当。推進委員会の啓発事業に協力

2. 背景・目的：

本取組は、彦根ユネスコ協会の活動への青年層の参画推進を目的とする。

2012 年に設立された彦根ユネスコ協会の会員数（団体含む）は約 150 であるが、青年層の参加は一部にとどまっている。全国の他のユネスコ協会の活動を見ると、活動が活発なところは青年層の活動が大きな原動力となっており、彦根ユネスコ協会の今後の活動促進においては、青年層の参画が必要であると考える。

大学生・教職員を中心メンバーとする「学生参画推進委員会」を発足させ、協会会員と協働で各種活動を企画・運営し、協会活動への青年層の参画の促進を目指す。

3. 活動内容・成果：

①協会会員、事務局、学生会員への聞き取り調査（7 月・8 月）

→ 現状、課題等の把握・分析。推進事業への協力も依頼した。

②市内 3 大学の学生、教員への聞き取り調査（7 月・8 月）

→「どのような団体かわからない」「具体的なイメージがわからない」「敷居が高い」等の意見が出た。推進事業への協力も依頼した。

③月例会に大学生が参加。（7 月 9 日、8 月 20 日開催。彦根商工会議所 2 階常議員会室）

④学生参画推進委員会を発足（7 月。構成員：学生・教職員、協会会員、協会事務局員）

⑤彦根ユネスコ協会・ユネスコスクール連携強化事業 ESD 先進地事例研修会に大学生が参加（8 月 26 日開催）



月例会



ESD 先進地事例研修会

⑥学生参画推進委員会の開催（7月から随時）

→ 現状、課題を把握・分析し、参画促進に向けた具体的取り組み（インタビュー調査・研修講座等）の企画、運営について協議した。

⑦大学生による協会理事を対象としたインタビュー調査（9月5日 聖泉大学応接室）

→ 獅山向洋理事にお話を伺った。協会設立の経緯、ユネスコ・協会の理念、若者にかかる期待等をお聞かせいただいた。

⑧市内3大学の学生、教員への聞き取り調査（11月）

→ 研修講座の周知。聞き取り結果を研修講座の内容に反映した。



大学生による協会理事へのインタビュー調査



研修講座の企画・準備

⑨研修講座「ユネスコ協会における若者の活動について」を開催（12月13日 聖泉大学352教室）

→ 基調講演では、前川恒廣彦根ユネスコ協会会長からユネスコ・協会の理念、若者にかかる期待等をお話いただき、ワークショップでは参画促進に向けた具体的な取り組みについて意見を出しあった。「例会で学生が発表」「例会を市内3大学でも開催」「このような研修講座を毎年開催」「若者のネットワークを作る。青年部の設立」「ユネスコ活動を大学で単位化」「学生の興味関心を調査する」等、多数の意見が出された。



大学生が企画・運営した研修講座

⑩環びわ湖大学地域交流フェスタ 2014 にて中間報告

⑪協会新年賀詞交換会にて中間報告（1月17日彦根グランドデュークホテル）

4. 今後の取り組み

推進委員会では、研修講座で出された意見等を参考に以下の活動を計画している。

①本年度と同様の研修講座を開催し、「若者と会員・地域住民」「会員同士」の意見交換の場とする。

②学生を対象とした調査を実施し、興味関心を分析する。

③彦根ユネスコ協会の月例会の一部を市内3大学で開催する。学生が例会で発表する。

④学生参画推進委員会の継続開催

No. 4

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（活動テーマ）	: 理想の天津つくろう～大学生が考える未来の天津～
提案者	: 大津市
自治体担当者	: 大津市企画調整課主幹 龍池和隆
大学担当者	: 龍谷大学社会学部 脇田健一教授・龍谷エクステンションセンター

1. 取組み体制：

龍谷大学瀬田キャンパスの学生12名が、天津のまちの現状を知り、天津の将来像を考えるため、市のまちづくり関係部署の職員とともに活動した。活動の中で、地域に関わる住民等にも聞き取り調査により関わっていただいた。脇田教授は、アドバイザーとして学生への指導や助言を行い、龍谷エクステンションセンターは、学生のサポートを行った。

2. 背景・目的：

大津市では次期総合計画策定に向け、様々な市民の意見を聴取し、まちづくりの基本理念や、将来のまちのビジョンを具現化しようとしている。その一環として、若者のまちづくりに関する意見を聴取する機会として、「おおつ未来まちづくり学生会議」を開催。

ワークショップやまち歩きを行い、天津を知り、魅力や課題を見つけ、「住みよい、住みたい」理想の天津とはどんなまちなのか、学生に将来ビジョンの提案をしてもらうため実施したもの。

3. 活動内容・成果：

●7月10日（木）

第1回おおつ未来まちづくり学生会議

テーマ：天津を「知る」

自己紹介、オリエンテーション、脇田健一教授による講演、市の概要説明の後、学生と市職員が「ひと」「自然」「まち」の3グループに分かれ、天津のキーワード等を書き出し、次回のまち歩きの相談。



2人1組の自己紹介の様子

●9月12日（金）

第2回おおつ未来まちづくり学生会議

テーマ：五感使ってまち歩き

志賀地域、坂本・石山、膳所～浜天津の3グループに分かれてまちを歩き、各地域の施設や観光地において聞き取り調査を実施。その後、気づいた天津の見所や特色、気になった課題等を模造紙に整理をして発表した。



ほっとすていしょん比良にてインタビュー



坂本の石畳をまち歩き

● 10月17日（金）

第3回おおつ未来まちづくり学生会議 テーマ：おおつの“いいね”を考える

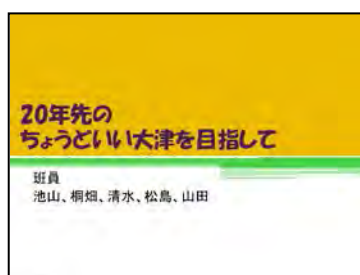
まち歩きで聞いた声や気づいたことなどをもとに、どんな大津なら住みやすいのか、10年後、20年後にどんな大津になって欲しいのか、などの視点で、発表会に向けての話し合いを進めた。

● 11月18日（火）

第4回おおつ未来まちづくり学生会議 テーマ：理想のおおつをつくろう！

これまでの取組みの成果や自分たちの思う理想の大津について、市職員やまち歩きでお世話になった方など、約50名の前で発表。自分たちの目で見えて感じた素直な気持ちを心を込めて伝え、会場からは意見の飛び交う熱気のある発表会となった。

上から：発表会の様子、学生の発表資料表紙、提案内容のまとめ



①「しが」を広めよう テーマ：おおつの「自然」

まち歩き（比良、和邇）の体験より
・自然（琵琶湖、山並み）の良さを改めて感じた
・地元の人には恵まれた自然が当たり前に前すぎている
・インタビューして不便さも特徴と確認できた

しながちゃん

小林 風花
堀部 亮太
三浦 知佐子
米田 直樹

提案

- ① 外からの声を住民に届ける
広報おおつに“観光客の声”を掲載
- ② 今の活動を継続する
続けることで質と郷土愛が向上
- ③ 市内で活動の共有
地域ごとの魅力を再発見

②20年先のちょうどいい大津を目指して テーマ：おおつの「まち」

まち歩き（坂本、石山）の体験より大津は
● 都会でもなく ● 人がいないわけでもなく
● 田舎でもない
⇒ くらしと観光が調和した「ちょうどいいまち」だ

ちょうどいいを保つためには
① 高齢者が生涯現役のまち
見る観光でなく体感する観光へ、そこに高齢者の力を
② 新しい住民の地域への定着を

③女湖プロジェクト テーマ：おおつの「ひと」

まち歩き（膳所、長等）の体験より
・歴史が感じられ、子育て環境も整っている
・若者がまちにいないのが残念
・インタビューして大津に活気がほしいと感じた

「Otsu Endless Discovery」
・大津市の魅力を包み隠さず発信していくべきとの思い ⇒ 若者に共有
・具体的には「ゲストハウス+α」で人を呼び込む
・都市のアンチエイジングを！

● 12月22日（月）

市長とのランチミーティング

学生会議のメンバー5名が越市長とランチミーティングを実施。市長は、「学生の皆さんの提案をぜひ教えていただきたい」と話し、メンバーから、まちづくりの取組みやアイデアを聞いた。

4. 今後の取り組み

学生会議の提案については、次年度から本格化になる総合計画の策定作業において、学生の声として活かし、取り入れていく。

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（取組テーマ）	: （農産加工品等）地域資源の掘り起こしと活用
提案者	: 東近江市
自治体担当者	: 東近江市企画部企画課 主事 谷 佑一郎
大学担当者	: 滋賀県立大学 助教 上田 洋平

1. 取組み体制

東近江市農林水産課及び対象地域内で活動する同市の地域おこし協力隊隊員と連携し、滋賀県立大学上田（人と地域）研究室の統括により、対象地域（奥永源寺地域）内において地域貢献活動に取り組む滋賀県立大学政所茶レン茶[®]ー（チャレンジャー）所属の学生も参加して実施する。地域資源の調査及び活用手法については、適宜専門家等からのアドバイスを受ける。また、地域資源・地域文化発掘のための活動に、大学生と共に参加するとともに、自ら地域資源・地域文化継承の主体になる志を有する若い人々にも呼びかけて、チーム作りを目指す。

2. 背景・目的

東近江市奥永源寺地域（蓼畑、杠葉尾、黄和田、政所、箕川、蛭谷、君が畑の7集落）は、中世の商業路八風街道における人・モノ・情報往来の歴史や木地師の根拠地としての伝承等に見られるように、山深くに位置しながら古来独特の文化の香り高い土地柄である。

しかし生活様式や経済活動の劇的な変化の中でこの地域は交通不便地となり、過疎化、少子・高齢化の影響も相まって地域の活力が減退している現状にある。

一方で、近年では、高度経済成長から低成長、成熟型へと社会や経済の局面が変わりつつある中、むしろこうした環境に魅力を感じて移住したり、この地域に関わりを持つことを望む人たちが、とくに若い世代の中により多く登場するようになってきた。さらに、平成23年にはかつての八風街道に重なる国道421号線新たなトンネルが開通し、車の流れが劇的に変化してきている。これを踏まえ、平成27年度には新たに道の駅が開設される予定である等、当該地域をめぐる状況改善の追い風となるような事柄も漸次出来している。

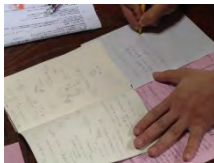
市及び地域の関係者はこうした新たな流れを受けて、地域の資源や生活文化を活かし、年来の課題を内発的に解決することを目指している。そこで本事業では市及び地域関係者の動きを支援するため、平成25年度から、以下の3点を目的として調査・活動に取り組んでいる。

1. 奥永源寺地域に育まれてきた生活文化及び様々な地域資源、とりわけ食文化と食資について調査・発掘し記録する。
2. 学生をはじめとする若者あるいは域外の来訪者の視点から奥永源寺地域の資源や地域自体の魅力を再評価あるいは発見する。
3. 発掘・発見した地域の資源を活かし、将来的に道の駅等において販売・展開できるような農産加工品や地域の価値（ブランド力）向上に資するサービスを提案する。

昨年度調査報告書では、地域資源の活用に関して「単にモノだけで勝負するのではなく、地域の文化や生活誌を踏まえ複数の資源と組み合わせる行き方に活路が見出せる可能性が大きい。むしろ「食べ物(モノ)」だけでなく「食事(コト)」をどう生み出すか」という観点から、今後は広く地域のあらゆるめぐみや生活誌を丹念に調べるとともに、学生自らが伝承者に加わりつつ、地域のめぐみをめぐりあわせて新たな文化を創る運動へと展開させたい」としており、今年度はこうした観点に立った取組を進めた。

3. 活動内容

上記目的を達成するため、以下の事業を実施した。

実施日	事業名	実施内容
1月6日 1月7日	聞き書き技法に関する研修会	地域資源の発掘・記録調査を実施するにあたり、ヒアリング調査の技法について研修するため、滋賀県立大学が主催して実施された聞き書き技法に関する合宿研修会に政所茶レン茶`ー等の学生が参加した。   聞き書き技法研修   聞き書き実地演習
2月28日 3月1日	地域資源に関する集中ヒアリング調査及びワークショップ	学生、社会人及び八日市南高校の生徒に呼びかけ、対象地域在住の住民(語り部)10名を対象にヒアリング調査を実施した。また、調査で明らかになった地域資源の活用策に関するワークショップを実施した。   ヒアリング調査   ヒアリング調査   調査成果まとめ

4. 成果と今後の展望

1) ヒアリング調査によって奥永源寺地域の 具体的な生活誌と地域資源の結びつきが明らかにになった。この成果をもとに、開業に向けて準備が進む道の駅で提供する商品の開発に活かす。この商品とは単に物品に限らず、地域の人々のめぐみ、また伝承されてきたワザに触れる機会・場を提供することも含む。今次事業に参加した 地域外一般市民の反応や評価から、人のめぐみやワザ等を活かした体験型商品の可能性が明らかになるとともに、その際の協力者となりうる人々の発掘及び関係づくりができた。2) 学生活動からの展開として、一般社会人の参加を得て事業を展開したことにより、学生を媒介者として、地域外の人々による奥永源寺地域のサポーター、あるいはファン層の形成、ネットワーク化への道筋がついたことも大きな成果である。今後はこうしたサポーターの拡大と組織化を目指す。

No. 6

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（活動テーマ）:	玉川っ子検定 ～わがまち玉川の魅力再発見～
提案者	: 玉川学区まちづくり協議会 会長 福井 太加雄
自治体担当者	: 草津市役所 都市計画部 景観課 主任 田村 昌也
大学担当者	: 立命館大学経営学部 教授 佐藤 典司

1. 取組み体制:

(1) 玉川学区まちづくり協議会

- ① 「玉川っ子検定プロジェクト委員会」の組織運営
- ② 検定ブックの編集および製作

(2) 立命館大学

- ① 玉川学区の魅力探しを客観的視点を用いて支援する
- ② 検定ブックの内容に関する提案や製作作業補助
- ③ 企画全体に関する助言および監修

(3) 草津市景観課

- ① 草津市景観計画による「市民主体の景観づくり活動」を推進するために、当該事業の企画実施に係る支援を行う

2. 背景・目的:

玉川学区は、日本六玉川の一つである史跡「野路の玉川」にちなんで名づけられた学区であり、学区内を通る旧東海道を中心として寺社仏閣などの歴史的資産が点在する反面、近年の住宅開発により転入者世帯の占める割合が大変多いのが特徴で、地域に住みながらもその歴史や魅力を十分に知らない方が多くおられる。

このことから、地域への愛着と住民間の交流を図るため、子どもと大人それぞれの視点から地域を捉え、地域に関連した内容で「玉川っ子検定」を実施する。検定を通じて、地域の人々の地元資産への知識、関心、愛着を一層深め次世代を担う子どもたちが関心を持つきっかけをつくる。

3. 活動内容・成果：

◇H26. 5. 3(土) 「くさつの風景『フォトコンテスト』in 玉川学区」

地域の神社の祭事に、一般参加者の募集を募り、祭事を通して玉川学区フォトコンテストを実施し、事業に使用する写真集めを行った。



◇H26. 7. 8(火) 玉川カルタの作成

玉川学区の歴史的資産、祭、イベント、自然風景などを盛り込んだカレンダーを昨年度に作成したが、その写真を活用し、地元の俳句サークルの協力を得てカルタの作成について進めた。

テーマ	頭文字	考案作品
稲刈り(玉小)	い	稲を刈る 子らの瞳の 輝きて
大運動会	ろ	老若が こぞって汗かく 運動会
仮又池	は	蓬群生 カルガモ遊ぶ 仮又池
西ロイルミネーション	に	西口に 人が賑わう イルミネーション
南消防署	ほ	防災と 救助に励む 消防署
東山道野路宿	へ	平安の 世より往来 野路の宿
創造館(桜)	と	季節来れば 桜に埋もる 創造館
玉川古跡と歌碑	ち	中世の 栄華を語る 歌碑古跡

カルタの一例

◇H26. 8. 6(火) 木瓜原遺跡の見学と検定の打合せ(3者)

地域の歴史資源であり、検定の問題として出題する、立命館大学の地下にある「木瓜原遺跡」の見学を行った。

その後、検定の問題数や内容について打合せを行い、玉川学区に所在する立命館大学に関する問題や、学生の視点から見た玉川学区について意見交換を行った。



木瓜原遺跡

◇H26. 12. 3(水) 検定問題と中間報告会について打合せ(3者)

大学が提案した検定問題の内容について打合せを行った。

その他、検定問題全般について打合せを行い、複数案からの絞り込み等について協議した。

◇H27. 3. 20(金) 検定問題冊子の完成

4. 今後の取り組み：

「たまがわフォトカレンダー」(1, 000部発行)と玉川カルタの普及啓発をするとともに、「玉川っ子検定」についてまずは小学校で検定を実施する。その他地域の行事などで普及啓発を行い、転入者や子ども達の地域への関心を高めていく。

No. 7

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（活動テーマ）:	歴史まちづくり法に基づく草津市のまちづくり
提案者	: 草津市教育委員会文化財保護課
自治体担当者	: 草津市教育委員会文化財保護課 参事 藤居朗
大学担当者	: ・立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 及川清昭教授、及び都市空間デザイン研究室 ・立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 青柳憲昌講師、及び建築史研究室

1. 取組み体制:

下記の3団体で取り組んでいる。

- ・草津市教育委員会文化財保護課 参事 藤居朗
- ・立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 及川清昭教授、及び都市空間デザイン研究室
- ・立命館大学理工学部建築都市デザイン学科 青柳憲昌講師、及び建築史研究室

2. 背景・目的:

歴史まちづくり法（正式名称：地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）は、「歴史的風致」の維持・向上を目指し、それを後世に正しく継承するために制定されたものであり、同法において「歴史的風致」とは「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されている（第1条）。本プロジェクトは、歴史まちづくり法によって草津市のまちづくりを行うため、同市の都市・建築に関する様々な調査・研究を行い、その成果を今後の整備計画に活かし、歴史的風致を正しく「保存・活用」しようとするものである。

本プロジェクトの対象地の一つである草津市常盤地区は、古代条里制にもとづく古くから開けた地域であり、また、主要街道と比叡山とを連絡する志那街道が地区中央を通り、交通の要衝に立地していた。それゆえ、歴史を通じて当地には様々な文化がもたらされ、今日まで古い信仰や芸能が伝えられている。古代・中世に創建が遡る神社が多く、室町時代に流行した風流踊りに起源をもつ「サンヤレ踊り」は、今日の神社祭礼においても、よく継承されている。さらに、同地区には印岐志呂神社本殿や吉田家住宅など、歴史的価値の高い建造物も多く現存している。

しかし、こうした「歴史的風致」は戦後の社会構造上の変化や近年の開発事業により損なわれつつあり、現在維持することが困難になっている歴史的建造物も少なくない。そのため本プロジェクトでは、同地区に立地する歴史的集落の実態を調査し、現存する歴史的町並みや歴史的建造物の有する価値を学術的に評価することにより、「歴史的風致」を正しく「保存」していくことを目的としている。

3. 活動内容・成果：

現地調査・実測調査

- 5月3日（土） 「サンヤレ踊り」の見学と実態調査
- 8月8日（金） 地籍図閲覧・資料収集（草津宿街道交流館）
- 9月16日（火） 実測調査（吉田家住宅）、三大神社の聞き取り調査
- 11月19日（水） 実測調査（吉田家住宅）、常盤地区神社建築の悉皆的調査
- 12月2日（火） 実測調査（印岐志呂神社・三大神社）

文献的調査・学術研究

①明治期作成の草津市常盤地区の「地籍図」の分析、および江戸時代における芦浦集落の変容に関する研究

明治初期に作成された草津市常盤地区の「地籍図」を多数収集し、比較・分析することで、各図の作成年代や図の精度等を明らかにし、当時の土地利用のされ方や地租改正前後の集落の変容について考察した。さらに、芦浦集落に焦点を当て、近世初期に作成された同集落の検地帳と上記「地籍図」の記載事項を比較・分析することで、近世初期から明治初期にかけての集落の拡大のしかたを詳細に分析しつつ、同集落には、近世初期から明治初期に至るまで、ほとんど変化していない地域が少なくなかったことを明らかにした。

②滋賀県旧栗太郡の神社と集落の関係に関する研究

滋賀県旧栗太郡に立地する数多くの神社について、その創建年代、氏子圏、境内地面積、集落との立地関係などに関して比較・分析し、宮座が成立したとされる中世のある時期の前後で、神社と集落の関係がどのように変化していたかについて考察した。また、常盤地区の印岐志呂神社や三大神社の本殿にも見られるが、滋賀県下に多数見られる特徴的な神社形式である「三間社流れ造り前室付き」の神社本殿に着目し、その形式が中世から近世にかけてどのように変化したかについて考察した。

4. 今後の取り組み

今後は、2014年度の調査結果をまとめつつ、歴史的町並み・建造物等の残存状況の良好な地域を抽出する。残存状況の良好な地域については、より詳細な実測調査等を実施する。また、吉田家住宅については、2014年度に行った実測調査をもとに、今後の利活用に向けた保存改修計画案を作成したい。

さらに、実測調査・文献調査などの学術調査で得られた知見をもとに、将来の整備に関する全体的方針について検討し、具体的な整備計画を策定したい。その際、点在する整備可能地域をつなぐルートとして、旧志那街道を活用しつつ「周遊路」を整備することを考えている。（文責：青柳憲昌）

プロジェクト種別	: A. 地域課題対応型
プロジェクト名（活動テーマ）	: 環境推進員（エコリーダー）への参加
提案者	: 環境推進員（エコリーダー） 事務局：彦根市生活環境課
自治体担当者	: 彦根市生活環境課
大学担当者	: 滋賀県立大学 環境科学部 平山奈央子

1. 背景・目的

地球温暖化をはじめとするグローバルな環境問題への関心が高まる一方、地域での環境保全活動にもっと意識をもってもらうことと、活動されている団体の構成員の高齢化に伴い、次世代へ活動を引き継いでいきたいというねらいから、地域の環境保全を実践し、市民への啓発活動を広く実施するための主導的な役割を担う環境推進員（通称：エコリーダー）を養成する。そのメンバーを中心に、行政・市民・学生などが協同して、環境保全活動に取り組むことを目的とする。

2. 取り組み体制

- ・学生に環境推進員に参加してもらう。
- ・県立大学と協同でイベントの開催を実施する。
- ・行政・大学・学生が協同して、環境に関する研修や研究・事業などを企画・運営し、地域の住民・企業を巻き込んで啓発や保全活動を実施していく。



3. 活動内容・成果

①小学校や自治会等への出前講座の開催

子どもたちや市民向けの講座を開設し、学校や自治会館へ出向いて出前講座を実施、または活動団体等を斡旋する。環境に関して興味のある学生、市民団体や地域活動に意欲のある学生に参加を呼びかけ、一緒に考え、活動を実施する。

②環境を体験できるイベントの開催（企画・運営）

環境をテーマに、市民が参加できるイベントを年1回開催。

ごみの分別やクイズ、スタンプラリーなど、参加者が体験できる企画を考案し、意識啓発を行なう。また学校・園での取り組み発表や事例のパネル展示などを行ない、大人から子どもまでが環境に触れ合えるイベントとする。

③環境に関する観察会や市民団体活動などの情報発信、

市ホームページや広報ひこねをはじめとし、市内で活動をしている市民団体や個人、企業などの取り組みを紹介。参加したい市民と活動を広めたい市民団体等を繋げる。

※ 現在、毎月第2木曜日に定例会を開催し、イベントの企画や取り組みについて活動中。

●定例会

4/10、4/17、5/8、6/12、7/24、8/19、9/11、9/25、10/2、11/13、12/11

●視察研修

4/13（日）東海エコフェスタ（愛知県）

●環境イベント「ひこねエコフェスタ～地域で育てるエコの環(わ)～」を開催

11/8（土）・9（日）滋賀県立大学キャンパス（学園祭である「湖風祭」と同時開催）

- ★環境に関わる活動をしている市民団体・学校・企業などの取り組みを紹介し、来場した市民が参加し、楽しく学んで“環境を体験”することで、環境への関心を高めてもらう。
 - ★市民・学生・行政などが連携し、地域ぐるみで恒常的な活動のネットワークを作る。
 - ・湖風祭実行委員会のメンバーと打ち合わせ（8/25、10/16、10/22 など）。
 - ・共同記者会見（10/27）実施。
- イベント内容：講義教室での発表・表彰・展示、および屋外ブースでの体験学習など

講義棟A4-107

時間	11月8日(土)	11月9日(日)
11:00	★開会式しモノ ・開会宣言 ・主催者挨拶	★表彰式 ・緑のカーテンコンテスト ・水の循環の マナーアップ模範コンテスト
13:00	★湖東地域環境シンポジウム ・講演「滋賀県のトポ事情」 講師 トンボ研究会 ・講演 弘行さん ・トンボ調査の表彰	★学校・クラブの取り組み事例報告 ・報告者 彦根中学校 ・報告者 稲枝実り放課後児童クラブ ★清掃活動報告 ・報告者 市橋 英昭 さん
15:00	★環境学習出前講座 ～水の中を見てみよう！～ 生活環境課 職員	★環境学習出前講座 ～ペットのしつけって？～ 生活環境課 職員
16:00	★環境学習出前講座 ～琵琶湖の生き物～ 生活環境課 職員	★開会式しモノ ・閉会宣言 ・主催者挨拶

講義棟A4-201 ★ひこねスクールフェスティバル
●彦根市内の小・中学校で取り組まれている環境の活動って、どんなことがあるの？パネルでわかりやすく紹介してまーす！

ひこねエコフェスタ イベント&屋外ブース紹介

3.プラスチック
リサイクルの部屋
by 彦根化成所

●リサイクルってどうなるの？みんなが暮らしているプラスチックの仕組みを解説！

5.五環生活
環境に配慮した、古くから伝わる「暮らしのカタチ」を提案します。
by NPO五環生活

7.琵琶湖の森を元気にする
琵琶湖の森を元気にする事業の紹介を行っています。
by 琵琶湖環境センター
滋賀県環境政策課

8.事業のエネルギー
次世代エネルギーである燃料電池技術の紹介と省エネについて考えます。
by 大阪ガス

9.タオロジナル広報紙を作ろう！
身近な環境を取材して世界に一つだけのオリジナル広報紙を作ろう！
by 彦根商工会議所青年部

10.環境ボランティア紹介しモノ
「こんな環境ボランティアがあったの！」彦根地域の環境ボランティアを紹介しモノ！
by 環境7e-ムラ

11.おもしろい水と環境
水質調査や水質の生息調査など、身近な水環境の調査活動について、紹介しモノ！
by 彦根市

12.おもしろい水と環境
水質調査や水質の生息調査など、身近な水環境の調査活動について、紹介しモノ！
by 彦根市

4. 今後の取り組み

- ・イベントで構築した市民団体・学生・企業・学校・行政などの“つながり”をより強固なものとし、恒常的に連携していく。 → 定例会に学生が参加！
- ・学生との意見交流会を行うなどして、メンバーとしての参加を呼びかける。
- ・ホームページやSNSなどを活用しての情報発信や広報活動を行なう。

●ひこねエコフェスタパネル展示（写真参照）

12月15日（月）～26日（金）市役所ロビー

●ひこねエコフェスタ交流会

12月18日（木）マリアージュ彦根

●視察研修（大阪ガス）

3月14日（土）大阪ガス科学館、ハグミュージアム

●県立大学生生活動発表会（写真参照）

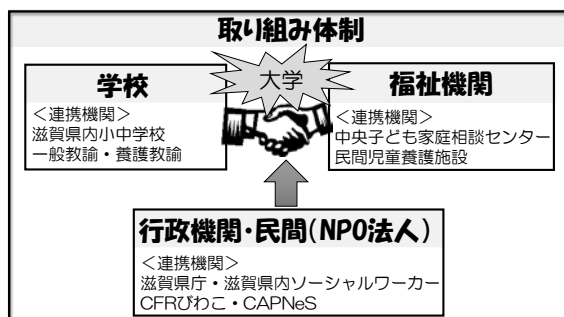
3月21日（土）鳥居本地区公民館

以上、学生や市民、企業などあらゆる立場の「ひと」が関わり、未来へつなげる活動を継続的に実施していく。

それぞれ持ち味を活用し、協働で取り組む。

16

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名（活動テーマ）:	学校と地域社会が協働した児童虐待対策ネットワーク構築に向けて
提案者	: 滋賀大学教育学部 学生 中村久美子
大学担当者	: 滋賀大学教育学部 講師 大平雅子



1. 取り組み体制：

「いかにして社会全体で児童を守るのか」が喫緊の課題となっている現在、学校、福祉・行政をはじめとする各主体（アクター）間の関係性や意識のズレをつかむことが求められている。これに対して、我々は昨年度までの研究活動の中で、滋賀県内において学校、福祉施設、行政機関、NPO 法人等の民間団体といった、様々な機関との連携関係を築き、本課題の遂行に必須であった取り組み体制づくりを行ってきた。

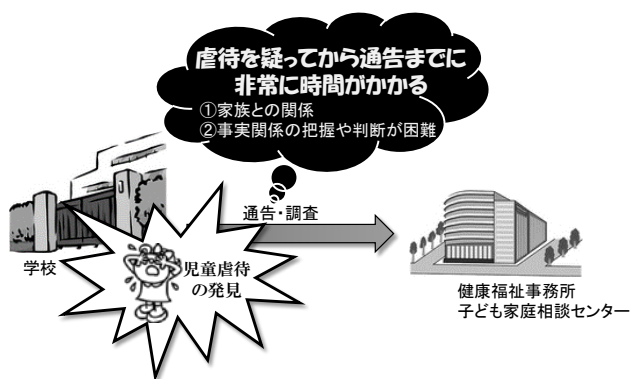
また、大学からは本課題で用いる質的研究手法において既に実績のある宮本結佳講師から協力を得た。宮本氏はまちづくり、環境保全の視点から行政、住民団体など地域に存在する複数の主体間の関係性及びそれらの協働の可能性を検討してきた。本課題と宮本氏がこれまで行ってきた研究は問題関心において重なる部分が多く、適切な示唆を得ることができた。

2. 背景・目的：

<背景>

平成 12 年 11 月 20 日に児童虐待防止法が施行され、児童福祉に業務上関係のある団体（学校、保育所、病院等）及び個人（教職員、保育士、医師等）に対しては、児童虐待を早期に発見する努力義務と「児童虐待を受けたと思われる児童」を発見した者は、

速やかに、市町村、福祉事務所、または児童相談所へ通告（児童委員を介しての通告も可）する義務が課せられた（児童虐待防止法第 5 条、第 6 条）。しかしながら、先行研究（岩崎ら、児童虐待問題に対する教職員の意識と対応の実態、2007）から、学校は虐待通告義務を認知しているものの、通告をためらう要因（正確に事実関係を把握したい、虐待判断に自信がない、子どもに更なる被害が出る可能性がある等）が強いため、通告できない現状が明らかになっている。これは、学校側が虐待を疑ってから、福祉・行政機関に通告するまでには大きなタイムラグが生じていることを意味している。



<目的>

上記の背景から、我々は、滋賀県内において児童虐待対策に携わる各機関(学校、福祉機関、行政機関、NPO 法人等の民間団体)のスムーズな連携を実現し、児童虐待の早期発見・解決のための方策の構築を目的とした研究活動を進めている。その過程において、今年度は、インタビュー調査を用いて、以下の2点を明らかにすることを目的として定めた。

【課題Ⅰ】各機関の連携を妨げる要因を明らかにする

【課題Ⅱ】そのギャップを解決するための方策を提案し、実現可能性を検証する



3. 活動内容・成果：

①インタビュー調査の実施

【課題Ⅰ】2014年4月～2014年9月(7回)実施

対象者：学校関係者 4名、福祉機関(子ども家庭相談センター・児童養護施設)3名

【課題Ⅱ】2014年11月実施

対象者：行政機関(健康福祉・子ども青少年局)1名

②大学地域連携課題解決支援事業会議の実施

2014年4月～2015年3月(12回)実施

③広報活動

本課題への取り組みについて、毎日新聞から取材を受け、11月11日(火)の地方版に上記の会議の写真及び取材記事(現場から記者レポート：県内の児童虐待 5000件超 対策急務)が掲載された。

④報告書の作成

インタビュー調査により、明らかになった課題の成果を報告書として冊子に取りまとめ、調査協力機関に限定せず、広く成果を発信した。

4. 今後の取り組み

課題Ⅱにおいて、政策提言することができた実現可能性のある方策の実現に向けて、準備を進め、来年度の活動に向けた引き継ぎを行う。

・教員対象の児童虐待対応マニュアルの作成

←質問紙調査や集団面接法を用いて、教員が必要としている情報を明確化する

・子どもを対象とした児童虐待対応教室の実現に向けた教育プログラム開発

←教職員、NPO 法人 CAP センター・JAPAN と覚書を交わしており、かつ滋賀県内で活動しているグループ等と連携して、以下の教育目標を実現することが可能な教育プログラムを開発する

【教育目標Ⅰ】児童虐待の早期発見に繋がる視点を養成する

【教育目標Ⅱ】児童虐待に対抗するライフスキルを養成する

No. 10

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名 (活動テーマ):	滋賀県の木質資源を利用した環境教育教材の開発
提案者	: 滋賀大教育学部, 岳野研究室
大学担当者	: 滋賀大学教育学部・准教授・岳野公人

1. 取組み体制:

本プロジェクトは、滋賀大学教育学部、技術教育研究室が実施母体となり、研究室に所属する学生、滋賀県内の学校教育現場教員との協力体制により実施した。滋賀大学教育学部・技術教育研究室：准教授・岳野公人（専門：技術教育学，環境教育学）学部4年生1名，学部3年生1名，学部2年生2名。本プロジェクトでの役割：木質資源の有効利用に関する実践と教材開発。

2. 背景・目的:

木質資源の廃棄問題においても、昨今1つの環境問題となっている。滋賀県内の関係機関に情報収集をした結果、野洲川の流木や河川周辺の廃棄木材の存在が示された。野洲川は国土交通省の管轄であり、職員にインタビューしたところ、年間の廃棄経費は数百万円かかるということであった。現在は、一般市民に配布することや堆肥づくりを試みているようである。また、滋賀大学におけるキャンパス整備においても、クリやコナラなどの伐採が行われているが、これらも利用することがなければ廃棄処分となる。そこで、本プロジェクトでは、これらの廃棄対象の木質資源に着目し、教育の視点から有効利用するとともに、これらの利用過程を記録し環境教育教材として活用することに取り組む。特に、有効利用の観点からは、廃棄対象の木質資源を利用したものづくり教材の開発、薪ストーブに利用するための薪加工、加工の際に排出される大鋸屑を利用した堆肥づくりなどを検討する。さらに、これらの過程をデジタル情報として記録し、デジタル環境教育教材を制作する。最終的には、ものづくり教材の体験教室とデジタル環境教育教材を併用した、教育実践を実施し、滋賀県の木質資源を使用した環境教育の推進を行う。

3. 活動内容・成果:

3.1 滋賀県の木質バイオマスを利用した教材開発の活動スケジュール

7月～9月：ものづくり教材の試作，薪加工，打ち合わせ（高山市），記録，授業実践

10月～12月：大鋸屑の利用（堆肥作り），記録

12月～1月：デジタル環境教材の制作（製作マニュアルづくり）

2月～3月：成果のまとめ

3.2 開発した教材をもちいた授業実践の結果

9月に行った授業実践では、中学生10名に対して木質資源を利用したウォールフック製作を行った。授業時間は90分で授業後には意識調査のアンケートを実施した。授業をした生徒に対し、アンケートを取り環境や技術に対する意識の変化について調査した。

アンケート結果では、観察や講義よりも実際に作業をし、実物に触れるような活動におもしろさを感じるということ、実際に作業を行うと正確性や仕上げの丁寧さに注目するようになるということが分かった。この結果より、流木を資源として使うことは、廃材を有効活用することの意義に気付かせることが示唆された。また、今回開発した教材は、ものづくりへの技術的な意識を向上させられることが示された。

4. 今後の取り組み

27年度以降も、本プロジェクトを継続して推進する予定である。ものづくり教材の開発は、それ自体が木質資源の有効利用につながると考えられる。本プロジェクトを推進することで、より大きな連携がうまれるように尽力したい。また、研究成果として学術的に公開することも検討したい。環境教育に関する学習効果を明らかにするために教育学的な分析を実施し、研究論文にまとめることも今後の課題である。



流木採取



旋盤加工



授業実践1（旋盤加工観察の様子）



授業実践2（開発した教材づくり）

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名 (活動テーマ):	堅田歴史、観光 ウォーキングマップの作成
提案者	: 成安造形大学
大学担当者	: 成安造形大学 社会貢献部門 主査 加藤賢治 びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ開発・支援センター 事務課長 松井茂孝

(1) 取組の背景・目的

平成 24 年 6 月から大津北商工会は、地域経済の活性化や街づくりを推進する目的で、管内大学（成安造形大学・びわこ成蹊スポーツ大学）と連携する事業を展開する大津北商工会・管内大学連携委員会を組織している。

その取り組みの中で、成安造形大学とびわこ成蹊スポーツ大学が連携し、地域の特性と、大学の保有する資源(人材・研究等)を生かした、堅田地区のまちおこしと観光振興を目的とした観光・健康ウォーキングコースの開発とマップ・冊子の制作、そしてウォーキングイベントを企画した。

(2) 具体的な取組報告

歴史文化資源に恵まれた堅田地区の観光・健康ウォーキングコースの開発

- ・ びわこ成蹊スポーツ大学が担当し、正しい姿勢での歩き方、体操の方法、消費カロリーなどのテキストとイメージ写真を準備。成安造形大学がそれらをかawaiiイラストで表現し、使いやすい冊子として編集した。
- ・ 大津北商工会・成安造形大学附属近江学研究所が担当し、堅田地域の歴史文化ポイントを整理して、ウォーキングコースを検討。ウォーキングコースをわかりやすく紹介する明るく楽しいマップを制作した。
- ・ ウォーキングマップ完成後、3 月 15 日（日）にウォーキングイベントを開催し、15 名の一般参加者とスタッフをあわせて 30 名が参加した。

(3) 取組体制

①びわこ成蹊スポーツ大学 地域コースのゼミ学生約7名、
ウォーキング解説指導（準備運動含む）
ウォーキングによる消費カロリー設定
健康アドバイス

②成安造形大学 イラスト担当教員1名、研究生1名、助手1名、附属近江学
研究所研究員2名
マップデザイン、冊子デザイン編集（印刷物）
コースポイントの企画立案

③大津北商工会 連携委員 6名
実行委員会事務局 歴史・文化の紹介、コースの安全確認等

(4) 実施スケジュール

7月下旬	実行委員会の立ち上げ（3団体） 現地調査及び役割分担の及びスケジュール表の作成
9月～翌3月	観光・健康ウォーキングマップ・冊子づくり
翌3月	観光・健康ウォーキングマップ・冊子の完成、広報活動
3月15日	ウォーキングイベントの実施

No. 12

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名（活動テーマ）:	米原市伊吹地域を中心とした、若者によるまちおこし事業の調査検証と記録
提案者	: 滋賀県立大学人間文化学部佐々木研究室 佐々木一泰
自治体担当者	: 米原市 政策推進課 川瀬 直亜
大学担当者	: 滋賀県立大学人間文化学部佐々木研究室 佐々木一泰

1. 取組み体制:

本事業により派遣した学生は研究室学生を中心に、若者による伊吹地域に関わるまちおこし事業に、参加した。現在伊吹地域では、元まちおこし協力隊の方々による伊吹の天窓をはじめとした活動が続いている。当研究室では 2009-2011 に滋賀県大津市石山商店街地域での活動。現在は学部生が中心となりながら、大阪府枚方地域の五六市の研究など、滋賀県を中心に近畿圏のまちづくり活動を空間デザインの視点から調査を行っている。



2. 背景・目的:

米原市伊吹地域は現在若者が中心となって、まちおこし事業の取り組みを進めている。また、この地域は平成 26 年 3 月には、国の重要文化的景観「東草野の山村景観」に選定され。今後の取り組みが注目されている。今回、地域の方々とも交流を行う事で、最終的には、平成 27 年 3 月末までに、事業の調査検証と記録を行い。今後の活動に役立てて頂くことを目的とする。

3. 活動内容・成果:

- 7 月 15 日(火) : 米原市役所の方々と伊吹の天窓の方々と学生の顔合わせ
- 8 月 4 日(月) : 伊吹の天窓に関して、学生の作業準備。学生は竹のデッキの製作。
- 8 月 5 日(火) : 竹のデッキの製作。ステージ装飾作業
- 8 月 8 日(金) : 伊吹のスタッフと学生で会場準備、セッティング
- 8 月 9 日(土) : 伊吹の天窓当日。(奥伊吹スキー場)
伊吹の天窓開催予定日だったが、台風のために中止
伊吹のスタッフ、ボランティアスタッフと学生で撤収作業

●9月23～26日(火、水、木、金)

： 竹のデッキを、米原ぽっぽフェスのデッキに利用するために改良
伊吹の天窓に展示予定だったものを改善、修正
地域の竹林で、学生と地域の人で伐採を行う。

●10月9日(木)： 搬入作業、竹デッキを移設。県大からゲルを移設。

●10月11日～12日

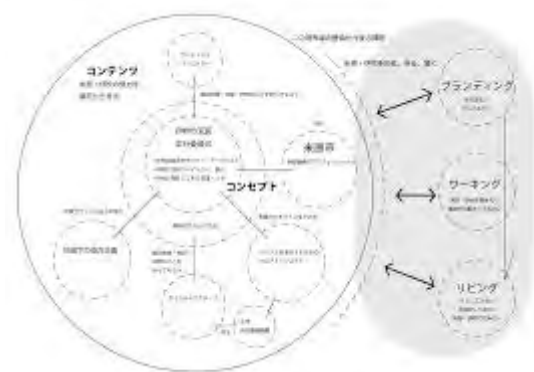
： 米原ぽっぽフェス。(米原駅東口駅前広場)
当日は、研究室スタッフもボランティアスタッフとして参加。
滋賀県立大学国際コミュニケーション学科のモンゴル人留学生の協力を得て、
モンゴルの伝統的住居、ゲルの設置を行い、こども映画館として使用。

●1月～2月： 聞き取りと検証を行い、学生デザインによる報告書制作。

●3月16日： 報告書入稿、3月24日仕上がり予定



4. 今後の取り組み



今回、研究室学生と地域のイベントに関わる中で、イベントの中止という事態を経験する事となった。そのことは、学生にも地域活動の課題点を見つけるきっかけになったのではないかと思います。現在も伊吹のスタッフと意見交換は継続している。今後も地域と大学の関わりの手法を色々と試行できればと思う。

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名（活動テーマ）:	龍谷大学政策学部「政策実践・探究演習」守山プロジェクト：話し合いがまちを変える！ 守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参加プロジェクト
提案者	: 龍谷大学政策学部「政策実践・探究演習」担当教員 只友景士（龍谷大学・教授）
大学担当者	: 龍谷大学政策学部教務課 栗田洋（政策学部教務課長）

1. 取組み体制：

本事業は、龍谷大学政策学部のPBL科目である「政策実践・探究演習」の実践・探究プロジェクトの一つとして取り組みました。当該PBL科目では、5地域（守山市、福知山市、京丹後市、洲本市、京都市伏見区）の7プロジェクトが実施されましたが、本プロジェクトの正式名称は、「話し合いがまちを変える！守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参加プロジェクト」でした。「政策実践・探究演習」の受講者65名中、本プロジェクトには9名が参加しました。

龍谷大学側は、代表者である只友を指導教員とするプロジェクトグループを形成し、正課科目として取り組みました。受け入れ側の守山市では、守山市地域振興課と協働のまちづくり課の2課と地元関係団体との連携によって取り組みました。

■ 龍谷大学側

- ① 龍谷大学政策学部「政策実践・探究演習」科目担当教員（教授・只友景士）
- ② 龍谷大学政策学部「政策実践・探究演習」守山プロジェクト受講生
- ③ 龍谷大学政策学部教務課及び龍谷大学地域協働総合センター

龍谷大学政策学部の教育プログラム「政策実践・探究演習」のフィールドの一つとして、守山市におけるまちづくり事業に関わる。大学は、教育事業を通じて、守山市のまちづくり事業に関わります。

■ 守山市役所側

- ① 地域振興課
 - ・ 守山まるごと活性化事業の推進。学区自治会との調整等。
- ② 協働のまちづくり課
 - ・ 市民懇談会及びわがまちミーティングの事業実施。

■ 守山市内の関係学区

- ・ 守山学区他

2. 背景・目的：

龍谷大学政策学部では、地域公共人材の養成と大学間共同教育連携事業の推進のために、2014年度より「政策実践・探究演習」というPBL科目を新設しました。この科目では、①具体的な政策プロジェクトに参画する能動的な学びを通じて、主体的な学習者になること、②現場体験を通じて社会的課題を発見する感性を育み、真理を「探究」する力を養成すること、③公共性を深く理解し、高い市民性をみにつけることを目標としています。また、政策プロジェクトへの参画、地域での学び、外部の専門家との交流などを通じて、プロジェクト・マネジメント能力やコミュニケーション能力の養成、研究の方法、奥深い思考や幅広い視野等、一歩進んだ学びを得ることも教育目標としています。

この「政策実践・探究演習」には、7つの個別プロジェクトがありますが、この中で、滋賀県内を対象とするプロジェクトとして「守山プロジェクト：話し合いがまちを変える！守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム」があります。このプロジェクトは、守山市役所地域振興課及び協働のまちづくり課との共同プロジェクトでした。守山市地域振興課主管の「守山まるごと活性化事業」及び守山市協働のまちづくり課主管の「市民参加と協働のまちづくり事業」の具体的な事業に龍谷大学政策学部生が参画するプログラムでした。

大学としては、具体的な政策課題を素材とした教育プログラムの開発を行うとともに、教育プログラムの安定的・継続的な実施体制の構築を目的としています。守山市側としましては、具体的なまちづくりの場面で「話し合い」によるまちづくりに、大学及び学生の参画を得ることで、事業実施の円滑化・高度化を図ることを目的としています。

3. 活動内容・成果：

- 4月30日(水) 守山市地域振興課および協働のまちづくり課とのキックオフミーティング
 - 5月14日(水) 講義グループワーク他
 - 5月21日(水) 講義グループワーク他
 - 5月28日(水) 講義グループワーク他
 - 6月4日(水) 講義グループワーク他
 - 6月11日(水) 講義グループワーク他
 - 6月15日(日) 守山市現地フィールドワーク (守山学区長、吉身東町自治会ヒアリング)
 - 8月31日(日) 守山市市民懇談会への参加
 - 9月24日(水) プロジェクト打ち合わせ
 - 10月1日(水) 守山市と市民懇談会振り返り
 - 10月16日(木) 学生自主企画ファシリテーター研修
 - 10月22日(水) 講義グループワーク他
 - 10月29日(水) 講義グループワーク他
 - 11月5日(水) 講義グループワーク他
 - 11月19日(水) 守山市とプロジェクト進行打合せ
 - 11月26日(水) 講義グループワーク他
 - 12月3日(水) 講義グループワーク他
 - 12月10日(水) 守山市とプロジェクト進行打ち合わせ
 - 12月14日(日) 大学間連携共同教育推進事業成果報告会(会場：同志社大学)
 - 1月14日(水) 最終成果報告会
 - 2月15日(日) 守山スタディ・ツアー(吉身東町自治会、玉津学区ヒアリング)
- 守山学区長ヒアリング (2014年6月15日) ファシリテーター研修(2014年10月16日)

守山市市民懇談会 (2014年8月31日)



4. 今後の取り組み

守山プロジェクト参加者は、福知山プロジェクト「市民の声を聞き、市民の声を形にする！福知山市政策マーケティング手法の開発と骨太の地域づくり参画プログラム」にも全員参画しています。両プロジェクトに参画することで、二つのケースの学びから比較検討を加えることで、学びをより深めていきます。

本プロジェクトは、守山市・地元自治会等との継続的な協力関係の構築が不可欠となりますので、学生の学びの成果・経験を組織的に蓄積し、本教育プロジェクトを継続的に展開していく必要があります。協働実践による学びの経験を龍谷大学・守山市・地元地域の間で共有し、発展させていく「学習する連携事業」の仕組みづくりの検討と具体化を図ります。2014年度受講生が、2015年度にも本科目を受講可能とし、後輩への「指導的な役割を経験(教える経験)」をする工夫も行います。そうした仕組みづくりの一環として、次年度の受講生確保を目的に、「守山市地域スタディ・ツアー(2015年2月15日)」を本プロジェクト参画学生と守山市役所の協働企画によって実施し、多数の参加者を得ることができました。

2015年度も守山市地域振興課及び協働のまちづくり課と連携により、「政策実践・探究演習」守山プロジェクトを実施します。2年目から1年目の既習受講者が、リーダー役となって、プロジェクト・マネジメントの経験を行うとともに、大学院修士課程の受講者が「学習する連携事業」の仕組みづくりを具体的に検討します。また、自治体側も連携事業によって、地域及び自治体がどの様に変化してきているのかを評価し、連携事業による地域づくりの効果を検証するとともに、地域・自治体の地域づくりの能力構築の実装化を進めます。

No. 14

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名 (活動テーマ):	科学 (Science) を通じた地域交流
提案者	: 長浜バイオ大学 Entrance to Science 代表 山本翔大
大学担当者	: 長浜バイオ大学 学生教育推進機構事務室 学習・就業力支援担当 課長 杜下好恵

1. 取組み体制:

本活動は、学生の自主活動団体「町家プロジェクト」をベースに2012年12月に活動を開始しました。学生主体の自主活動として取り組み、多くの地域の方々と交流をしています。活動の拠点「長浜バイオ大学 町家キャンパス」は昔ながらの町家を利用しており、町家の歴史、長浜の歩みを感じながら活動に取り組んでいます。

2. 背景・目的:

Entrance to Science では、科学を通じた地域交流を目的に活動に取り組んでいます。「科学」は長浜バイオ大学の学生にとって、毎日勉強する非常に身近なものです。一方、一般的に町の方にとっては“難しい”“堅苦しい”、小学生・中学生にとっては“嫌い”“つまらない”という印象があると強く感じました。そこで、私たち Entrance to Science は日常に潜む科学をピックアップし伝える活動を行っています。私たちの活動が多くの方の日常生活に新たな科学的な観点を生み、生活の質が少しでも豊かなものになれば、また特に小学生・中学生にとっては科学（理科）に向き合う「きっかけ」になれば、という思いで活動を行っています。

3. 活動内容・成果:

主な活動は「コラム活動」「講義活動」「出張活動」です。今年度は、例年以上に「出張活動」が多く、特に小学生・中学生が科学（理科）に向き合えるイベントを多く開催することができました。

・コラム活動

(2014 年)

- ▷ 5 月「桜のコラム」
- ▷ 12 月「雪のコラム」

(2015 年)

- ▷ 1 月「LED のコラム」
- ▷ 2 月「梅のコラム」

・講義活動

▷ 6 月 8 日 「雨の科学」 at 川崎や

昨年に引き続き、ライブハウス「川崎や」にて出張講義活動を行いました。

▷ 12 月 6・7 日「赤の講義」

「赤」にまつわる科学についての講義を町家キャンパスで開催しました。初めて取り組んだ炎色反応の実験は、非常に色鮮やかで盛り上がりました。

▷ 3月14・15日「緑の講義」

「緑」にまつわる科学についての講義を町家キャンパスで開催しました。講義活動では初めて、生き物を使った実験“ほうれん草のクロロフィルの抽出”を行い、私たちが大学で学んでいるBiologyの一端を体験することが出来る講義になりました。



・出張活動

- ▷ 6月7・8日「近世城下町ふるさと祭り “青空科学教室”」
- ▷ 8月19日「子ども長浜学 ～長浜バイオ大学で科学実験～」



小学生約50人が参加し、ドライアイスを使った科学実験を体験しました。

【実験】

- ・氷点下の世界（疑似液体窒素）
- ・ふわふわ浮かぶ!? シャボン玉

▷11月15日「長浜南中学校 科学実験フェス」



中学生約60人が参加しました。中学校の体育館をお借りし、実験ブースを7つ設置して“物理”“化学”“生物”の実験を行いました。

4. 今後の取り組み

2年間の活動で22枚のコラムの発行、5回の科学講義の開催、科学実験フェスや子ども長浜学など多くのイベントの開催と様々な形で科学を伝える活動を展開してきました。活動があまりうまくいかずに落ち込んだり不安になる事もありましたが、それ以上に活動を通じて科学の面白さがうまく伝わったときの達成感や、実験を通して科学に触れたときの子どもたちの様々な表情が強く印象に残っています。

コラム活動は現在Facebookを中心に配信をしています。今後はよりターゲットを広めて配信したいと考えています。講義活動は移動式のスクリーンやワイヤレスのパワーポイントなど設備が充実したので、町家キャンパスでの講義の質の向上だけでなく、外部の施設を利用する事も積極的に行いたいと思います。出張活動については、今年度の活動を非常に高く評価して頂きました。来年度以降は、クオリティを下げずに新たな科学やそれに伴う実験にもチャレンジしていきたいと考えています。

No. 15

プロジェクト種別	: B. 自主活動型
プロジェクト名 (活動テーマ):	身近な科学の面白さを体験させる
提案者	: 長浜バイオ大学 CELL 部 部長 安江俊輔
大学担当者	: 長浜バイオ大学 学生教育推進機構 学生担当課長 九野里英理子

1. 取組み体制:

長浜や彦根の小学校、公民館などからの依頼によって Cell 部が出張科学実験を行い、子供に科学とは何なのか、どのようなことができるのかを身近なものを使い体験させる。

2. 背景・目的:

身近なものを使った科学実験をすることにより子供たちの科学に対する興味関心を促す。
CELL 部の活動は原則ボランティアであり、大学としての地域貢献に協力する。

3. 活動内容・成果:

● 5月18日 NPO法人 健康づくり0次クラブ 健康フェスタ 長浜市 ダイラタンシー
ダイラタンシー実験: 片栗粉を水に溶かし、ゾル状にして、力を入れたら固まり、力を抜くと液状に戻るに戻るという実験。

● 6月21日 北郷里公民館 長浜市 吸熱反応実験
吸熱反応実験: 水と粉状の尿素を袋にいれ水と尿素が反応するとき吸熱するという性質を用いて冷たい液体を作るという実験。

● 8月9日 夏休み!子ども科学教室! 長浜バイオ大学 ケミカルライト
ケミカルライト: 複数の化学薬品を混ぜることで光を発する、化学発光現象を利用した実験。

● 8月19日 NPO法人きずな 米原小学校 万華鏡作り
万華鏡作り: 内部に鏡を張った筒を通して、移動するビーズなどの着色された細片を見ることを楽しむ実験。

● 8月22日 豊郷小学校 豊郷町 隣保館 浮沈子実験
浮沈子: パスカルの原理を利用し、容器を押し下ったり離したりすることで、中にあるものが浮いたり沈んだりする実験。

● 8月26日 日栄小学校 豊郷町 隣保館 浮沈子実験

● 8月28日 湖北会障がい者支援センター「あーと」長浜市 スライム作り
スライム作り: PVA とホウ砂、色水を用いて粘性のスライムを作る実験。

● 8月30日 木之本教育集会所 長浜市 弾むシャボン玉実験
弾むシャボン玉実験: シャボン玉だけでは手で触ると弾けてしまうので、シャボン玉液にグリセリンを加えることにより、シャボン玉の膜に強度を持たせることで手で触っても割れにくいシャボン玉を作る実験

●10月25、26日 命光祭 長浜バイオ大学 雲と缶、ケミカルライト クロマトグラフィー ペットボトル顕微鏡 葉脈、ローレンツ力 色が変わる液体 水中シャボン 顕微鏡

雲と缶：缶を用いて圧力を変え缶の中の水を雲に変える実験。

クロマトグラフィー：色素の粒子の大きさの違いを利用して分離する実験

ペットボトル顕微鏡：ペットボトルとプラスチック板で顕微鏡

を作り、玉葱の表皮を見る実験

葉脈：塩基処理により果肉を取り除き、葉脈だけを染色した実験。

ローレンツ力：リニアモーターの原理を用いた実験。）

色が変わる液体：異なる色の液体を混ぜると色が変わる実験。

水中シャボン玉：水中でシャボン玉を作る実験。



●11月1日 西武大津百貨店 大津市 スライム作り

●11月8日 養蚕の館 長浜市 人工いくら作り

人工イクラ：アルギン酸と塩化カルシウムが反応すると固まるという性質と液体の性質により丸くなるという性質により丸いイクラ状の物を作る実験。(11/8 養蚕の館)

●11月15、16日 おうみしごと体験フェスタ 滋賀県立文化産業交流会館 ケミカルライト

●11月22日 神照公民館 長浜市 弾むスライム作り

●12月14日 木之本教育集会所 長浜市 ペットボトル空気砲作り

ペットボトル空気砲作り：半分に切ったペットボトルに風船をはめて蓋をし、風船を引っ張り、離すことで空気を送り出して遊ぶ実験。(12/14 木之本教育集会所)

●12月20日 冬休み！子ども科学実験教室 長浜市 炎色反応実験

炎色反応実験：特定の金属を炎の中に入れて熱すると、それぞれの特有の光を発して燃えることを確かめる実験。(12/20 冬休み！子ども科学実験教室)

4. 今後の取り組み

今後の取り組みとしては、もっと身近な科学の面白さを多くの年代の人に体験してもらい、科学に興味を持ってもらいたい。

